



NICHIBAN

絆を創って100年

100th

ANNIVERSARY



ニチバン 社会・環境報告書 2018

NICHIBAN SOCIAL and ENVIRONMENTAL REPORT

やさしさに ぴったり そんな明日を

ニチバンは2018年1月に100周年を迎えました。

創業以来、やさしさにこだわり、皆さまの暮らしにぴったりと寄り添ってきました。

これからの100年も、持続可能な社会のためにさまざまな取り組みを進めていきます。

CONTENTS

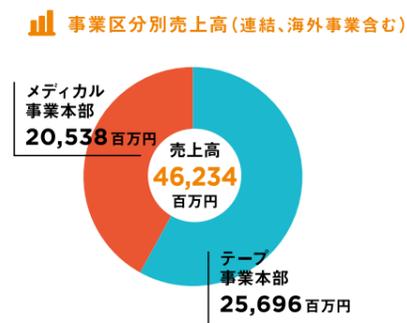
目次

会社概要／編集方針／事業ハイライト	1-2	◎100周年記念特集	7-10
◎100周年記念座談会	3-6	やさしさにぴったり。 そんな明日を目指して100年。	
次の100年も、 社会に価値を提供し続ける ニチバンであるために		社会性報告	
ニチバンの理念／行動指針／ ニチバンの倫理／中長期経営計画【NB100】		お客さまとともに	11-12
		社員とともに	13-14
		社会とともに	15-16
		環境負荷低減の取り組み	17-18

COMPANY PROFILE

会社概要 2018年3月31日現在

商号	ニチバン株式会社
創業	1918(大正7)年1月
本社所在地	〒112-8663 東京都文京区関口二丁目3番3号 TEL.03-5978-5601
代表者	代表取締役社長 堀田 直人
資本金	5,451百万円
売上高	46,234百万円(連結)
従業員数	1,241名(連結)
株主数	3,425名
グループ会社	ニチバンプリント株式会社 ニチバンテクノ株式会社 ニチバンメディカル株式会社 NICHIBAN(THAILAND) CO., LTD.
関連会社	株式会社販洋化工 大東化工株式会社 UNION THAI-NICHIBAN CO., LTD.



編集方針

本報告書は、ニチバングループの活動の結果をご報告し、より多くの方々にニチバンの事業活動を
知っていただくことを目的に発行しています。

報告対象組織

ニチバン株式会社
ニチバンプリント株式会社
ニチバンテクノ株式会社
ニチバンメディカル株式会社

報告対象期間

2017年度(2017年4月1日から2018年3月31日まで)の活動を中心に、
それ以前からの取り組みや、直近の報告も含まれています。

報告対象分野

環境・社会・経済的側面

参考にしたガイドライン

環境省『環境報告ガイドライン(2018年版)』

発行 2018年10月

2017年度 事業ハイライト

2017年

- 4月 **企業活動** 公益財団法人 日本体育協会(現・日本スポーツ協会)との
オフィシャルパートナー契約締結
- 5月 **IR活動** 平成29年3月期(第113期)決算発表
- 7月 **企業活動** タイ・バンコクに販売子会社
「NICHIBAN(THAILAND)
CO., LTD.」設立
- 8月 **企業活動** 先端技術棟の一部完成
中央研究所を移転し
「先端応用研究所」へ名称変更



- 9月 **新製品** 伸縮テープ機能とアンダーラップ
機能を一体化したバンデージテープ
「バトルウィン™Wグリップ™」発売
- 新製品** 関節部や筋肉をサポートする
キネシオロジーテープ
「セラボア™テープFXブラック」発売
- 新製品** 荒れた指先を保護・保湿する
「あかざれ保護バン™」シリーズから、小さい部位に
ピンポイントに貼れる「スポット用」発売
- 新製品** 片手で簡単にテープをカットできる
「ディアキチ™ワザアリ™テープカッター」発売



- 10月 **IR活動** 株式併合
- 新製品** 用件やメッセージを簡単に
伝えられるメモタイプのふせん
「コミュニケーションふせん
つたえる」発売
- 11月 **IR活動** 平成30年3月期(第114期)第2四半期決算発表
- 2018年
1月 **企業活動** ニチバン創業100周年
先端技術棟竣工、大阪工場を
移転し「メディカル安城工場」
に名称変更



- 2月 **新製品** ディズニーキャラクターの便利なふせん
「スティッキーメモディズニー」発売
- 3月 **新製品** 治癒促進絆創膏「ケアリーヴ™
治すカ™」シリーズから、靴ずれを
早くきれいに治す「かかと用」発売
- 新製品** 誘引結束システム「とめたつ™」
シリーズから、小型・軽量化で持ち
やすい誘引結束機「とめたつ™ライト」
と専用粘着テープ「とめたつ™テープ
環境配慮タイプ」発売



次の100年も、社会に価値を提供し続ける ニチバンであるために



石原達夫 × 清水與二 × 堀田直人

社外取締役
(弁護士)

社外取締役
(元 株式会社アサツー ディ・ケイ
代表取締役)

代表取締役社長

— 社外取締役からみた、 ニチバンへの評価をお聞かせください。

清水 「セロテープ®」や「ケアリーヴ™」に代表される高品質な製品、そして小型丸形でユニークな形状の「ロイヒつば膏™」のようなオンリーワン製品など、競争力のある多彩な製品を持つことがニチバンの強みだと考えます。2015年にコーポレートガバナンス・コードが導入され、社外取締役、社外監査役と、外部の視点が加わるようになったことで、取締役会により緊張感が生まれ、議論も活発になってきていますね。

石原 私は社外取締役に選任されるまでニチバンとはまったく関わりがなかったのですが、そんな門外漢の私を、取締役をはじめ社員の方も仲間として迎えてくださり、また意見や発言も分け隔てなく受け入れてくださることに、ニチバンの特質、そして100年企業としての根底があるように思います。私は弁護士ですが、経営者の視点でみる会社と弁護士の視点でみる会社とは、別物だと思っています。弁護士は、法律というものさしに従って問題を解決しますが、経営者には必ずしも決まったものさしはなく、その時々で最良の選択をすることが求められますね。ですから、ご自身も経営者であった清水さんとは異なる観点・視点から取締役会の幅を広げていくことが、私の務めだと考えています。

堀田 おかげさまで、2018年1月に、当社は創業100周年を迎えるこ

とことができました。日本では100年を超える企業は“老舗”と表現されますが、その仲間入りできたことについては、ステークホルダーの皆さまへの感謝が尽きません。この感謝の意を、持続的・発展的な事業活動によってお返しするとともに、今後ますます社会への責任を果たしていくためにも、今まで以上に社外からの鋭いご指摘をいただきたいと考えています。

— ニチバンが果たしていく社会的責任(CSR)とは、 どのようなことだとお考えですか？

堀田 本業を通じたCSRという意味では、お客さまが期待する製品をご提供し喜んでいただくことが、当社の一番の使命だと考えています。そのために必要なのが、「開発力」です。開発力を基盤としながら、「自社の中で技術を創り出し、製造し、自ら売る＝“メーカー”であり続けること」は、変化を続ける中でも変わらずに持ち続けるべき当社の姿勢だと考えます。

石原 創業時より培ってきた粘着技術に、いかに汎用性を持たせるかを考える段階にきていると思います。絆創膏の製造に始まり、医療、文具・事務用品、産業と事業分野を広げてきましたが、粘着技術にはまだまだ無限の広がりがあるはずで

清水 環境面では、低炭素社会の構築に向けてアクセルを踏み込ん

でいかなければならないでしょう。2015年に採択されたパリ協定には、190カ国が署名していますが、この分野への対応の遅れは、企業活動が制約を受けることにもつながりかねません。2040年には、ヨーロッパではガソリン車が走れなくなると言われており、電気自動車の開発が進みました。しかしこれは一朝一夕でできるものではなく、莫大な投資も必要です。当社としても、地球温暖化防止や温室効果ガスの削減に向けた技術開発が急務です。

堀田 粘着テープを製造する事業者としては、大気・土壌・水質汚染をもたらす可能性がある溶剤についての課題があります。以前より注視し使用量削減を進めていましたが、2018年4月に、「溶剤を使用しないニチバンのあり方を検討するためのプロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクト内で具体的な目標を定め、スピード感を持って取り組んでいきたいと考えています。

— 人財育成については、どのようにお考えですか？

堀田 当社の社員はとても真面目です。一方、私の目からみると少々おとなし過ぎるという印象もあるので、次の100年に向けて変化・進化を続けていくためには、会議体や報告会、日々の業務の中でもっと議論を交わしていけるような活発さも必要だと感じています。

清水 私自身が経営者であった経験と照らし合わせても、「企業は人なり、最後は人なり」だと思います。少子高齢化により生産人口が減少し、人財確保も困難になってきている中で、いかに人財育成を進めていくかは大きな課題です。業務を細分化し外部に委託するとしても、技術の流出や利益低下は防がなければなりません。自社で行うべき重要な部分でいかに社員の能力を発揮させるか、そのためにどのような育成を行うべきかを考えていく必要があります。

堀田 「人財」という言葉が表すように、社員は当社の財産です。一人ひとりが能力を高めていくことが社会への価値創出につながるという考えのもと、社員の「挑戦したい」という意欲をサポートできる仕組みを構築していきます。また、世界を視野に入れた育成も必要です。グローバルという単語を身につけることが挙げられますが、私はそれだけではないと考えています。自分の仕事、ニチバンの仕事、さらには日本という国のことを、世界に向けて自分の言葉で紹介できる。これが真のグローバル人財なのではないでしょうか。このような点からも、社員の能力向上を推進していきます。

— ガバナンスに関する考えをお聞かせください。

石原 ニチバンに限らずどの会社にあっても、その組織がよって立つ基盤やルール、培われてきた歴史があります。これらに従って業務を忠実にやっている限り、ガバナンスやコンプライアンスの問題は発生しないはずなのです。一方、本来踏むべき手順を飛ばしてしまった時など、イレギュラーな事態が起こります。その理由はさまざまあると思いますが、人間が行うことですから思い込みや見落とし、あるいは怠慢など、



NICHIBAN ニチバンの理念

創業の精神

私たちは、「和親協力・進取向上」を“創業の精神”として継承します。

基本理念

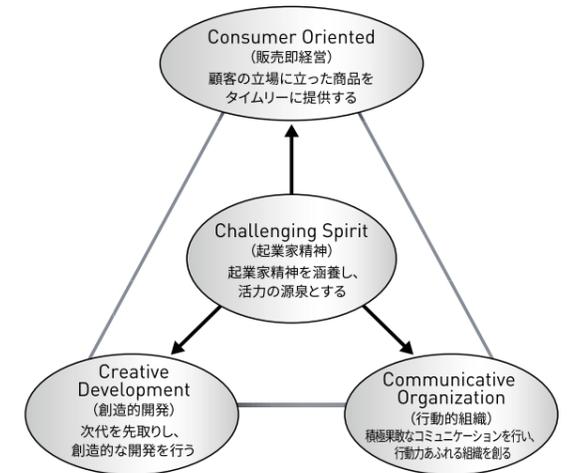
私たちは、常に社会に役立つ価値を創出し時代を拓き、ニチバンにかかわるすべての人々の幸せを実現します。

事業領域

粘着の分野を原点として新たな領域に挑戦し、常に世界に経営資源を求め、人々の快適な生活をトータルに支え続けます。

経営姿勢

“ベクトルC”の経営を実践します。



行動指針 〈アタック21〉

Flexible	Attitude	時代を見つめて	常に柔軟な発想を
Ambitious	Target	自らにチャレンジして	常に高い目標を
Quick	Action	迅速な意思決定で	常に素早い行動を
And	Check	管理を怠らぬ	常に結果の見直しを



100周年
記念座談会

企業が50年、100年と 存続することが、 最大の社会的責任

100%ないとは言いきれません。個々人の意識を徹底するとともに、人間は過ちを起こすかもしれないという前提で、ルールを守るためのチェック機能を強化することで、健全かつ透明性のある経営を遂行できると考えます。

堀田 法に則るのは当然のこととして、まずは500億円企業を目指すという、当社の身の丈にあった施策を検討・立案・実行していきます。その上でさらに、一步先行した仕組みや考えを取り入れながら、ガバナンス体制の強化に努めていきたいと考えています。

一次の100年に向けての展望・課題をお聞かせください。

堀田 これまでの100年は主に国内を中心に事業を行ってきましたが、今後はグローバルに展開していかなければ立ち行かなくなるでしょう。現時点で当社の海外展開は、日本企業の中でも遅れをとっていると言えます。これは喫緊の課題です。

石原 乗り越えるべき課題はあると思いますが、これから本格的にグローバル市場に打って出るということは、世界一優秀な製品を世に送り出すチャンスがあるとも考えられます。近年好調なヘルスケア製品は、

まだまだ伸びしろがあるように感じますし、手術に使用されるテープなど、今後の社会でより一層必要になるであろう医療分野においても、粘着技術への需要は高まっていくのではないのでしょうか。

清水 現在、世界ではIT分野が基幹産業となっていますが、その後は再生医療の時代がくると言われています。再生医療は日本が強みとしている分野なので、その周辺の医療材へのシーズに可能性を感じています。さらなる研究・開発を進めている経皮吸収型製剤もそのひとつですね。今こそ、先を見据えた開発が必要です。

堀田 メディカル事業とテープ事業の比率が同等になるのが、ニチバンとしての理想の姿だと考えています。現在はメディカル事業が好調で、昭和から平成に変わる頃に生み出した製品が牽引しています。一方、テープ事業では平成に入ってから大きく育った製品がありません。「セロテープ®」、「ナイスタック™」、「たばねら™」などは、発売から40年以上が経過しています。これらに代わる新しいテープを、創業当時のようなスピード感を持って育てていきたいと思っています。

清水 どのような企業でも、既存事業は成長が止まり衰退する流れがあります。その時に、次の一手をどうするか。ニチバンは粘着に関する

素晴らしい技術を持っているので、その技術をベースに、どの分野に狙いを定めるかという判断が求められています。

石原 2018年1月に竣工した「先端技術棟」の中に設置した、「先端応用研究所」での挑戦に期待したいと思います。100年という長い歴史と伝統を踏襲しながら、その上にいかに新しい技術を積み重ねていくか。「新しい酒は新しい革袋に盛れ」ということわざがありますが、新しい酒こそ古い革袋に入れ、新旧を調和させてより良いものを作っていく、そんなニチバンであってほしいですね。

清水 「人にやさしい技術」「環境にやさしい技術」「新たな価値の創出」を、現在推進している中長期経営計画【NB100】のビジョンでもうたっていますが、これはまさに「歴史と伝統」の上に成り立っていますね。「ケアリーヴ™」に代表される肌へのやさしさ、天然由来の素材を使用している「セロテープ®」の環境へのやさしさ。これらの技術から、新しい価値を生み出しているところに、ニチバンとしての企業価値があるのではないのでしょうか。これは、昨今のESGの考え方も一致しています。

堀田 粘着テープとして「よく付く」ことが基本ですが、安心して使っていただける製品を生み出すという精神は、これまででも、そしてこれからも変わることはありません。安心・安全であることを評価されての現在のニチバンであることを強く意識しながら、より差別化した製品を生み出していきたいと考えています。



石原 そのための提言として、社長が話された通り、社員がもっと活発に意見を発信していける企業風土を醸成できるとよいですね。取締役会も現在の形から一步前進させ、各取締役が自分が主管する部門の現状、細かく言えば、現場が今求めていること、困っていることを吸収して取締役会に議題としてあげ、社長が持つ見識や方向性と調和させながら意思決定をしていく。この実現に向けて、社外取締役としての責任を果たしていきたいと考えています。



清水 人間が本来備えているべきものである「真面目さ、実直さ」を社員が持ち合わせているからこそ、ニチバンは100年続いてきたとも言えます。ここに積極性が加わると、次の100年もニチバンは競争力を持ち続けられると思います。

堀田 私は、企業が50年、100年と存続することが最大の社会的責任だと捉えています。当社の基本理念には、「ニチバンにかかわるすべての人々の幸せを実現」というフレーズがありますが、まず一番に社員がいつも笑顔で働きがいや、やりがいを感じられることを大切にしたいと考えています。なぜなら社員自身が幸せであるからこそ、よい製品をお客さまにお届けし、すべての人々を幸せにすることができると思うからです。絶え間ない「企業品質」の向上を目指しながら、今後も、この幸せの循環を作り上げていきます。

ニチバンの倫理

基本方針

私たちは、「企業は社会の公器」であることを認識し、行動指針に基づく活動を通じて、社会的責任を果たしてまいります。

行動指針

- 1 法令等の遵守
- 2 有用・安全・安心な製品の提供
- 3 反社会的行為への断固たる対応
- 4 情報管理と開示の徹底
- 5 当社倫理の徹底

中長期経営計画【NB100】

当社グループは、2011年度より8か年にわたる中長期経営計画【NB100】を推進中です。【NB100】では、ニチバンの理念のもと、社会から「信頼され期待される企業」となることをビジョンとして掲げています。「企業品質向上」「基盤効率化・安定化」「成長追求」を戦略フレームとして、創業100周年を迎える2018年度までに「メディカル事業比率43%以上」「海外売上比率7%以上」※を達成し、「連結売上高500億円」を目指します。

※2017年11月8日付で連結経営目標数値の見直しを行っております。

【NB100】ビジョン



PICK UP

100周年記念特集

やさしさにぴったり。

そんな明日を目指して100年。

1918年、歌橋製薬所として創業したニチバンは、
2018年に100周年を迎えました。絆創膏、軟膏・硬膏類の製造・販売から
始まった当社は、絆創膏開発で蓄積してきた粘着技術をベースに、
幅広い分野に「貼る」製品をお届けすることで、
人々の快適で豊かな暮らしに貢献しています。

“貼る”を暮らしの中に _セロテープ®

ニチバンは「愛される文房具づくり」をテーマに、
製品をご提供しています。その原点となったのが、1948年に発売した「セロテープ®」です。
戦後の文具三大ヒット商品のひとつと言われた「セロテープ®」には、「ものどもの“貼る”
道具を通して、人々の生活を少しでも豊かに」という想いを込めています。いつもは気にもと
めないけれど、当たり前のようにそばにある。これが道具としての理想の姿だと考えています。

暮らしに

ぴったり

寄り添う



絆を創って100年

100th
ANNIVERSARY

「セロテープ®」は、天然ゴムをベースとした
粘着剤を使用することで、温度の影響を受
けにくく、しっかりとよく貼り付きます。また基
材のセロハンフィルムは木材チップを原料とし
た天然素材のため、静電気が発生しにくく、
紙を吸い上げにくいので、スムーズに“貼る”
ことができます。さらに独自の研究から生み
出したテープの4層構造は、粘着力とテープ
の引き出しやすさを両立させています。

新たなブランドの
創生を目指して

テープ事業本部
テープ開発部長

深野 兼司



テープ事業を代表する「セロテープ®」ブランドが
長くニチバンを支えたように、次の100年も新た
なブランド創生なくして展望はないと思います。
そして高品質でもオンリーワンでなければ、製品
は売れない時代です。ニチバン品質を堅持し、
人や地球にやさしい新製品をタイムリーに開発
し、次の100年につなげてまいります。

こだわりぬいた肌へのやさしさ

_救急絆創膏 ケアリーヴ™

ニチバンは、1948年に日本で初めて救急絆創膏を発売しました。
以来、長年蓄積してきた技術をベースに、素肌のような貼り心地の
「ケアリーヴ™」を生み出しました。貼っている時の違和感を少なくし、
いつでも快適に使っていただきたい。だからこそ「ケアリーヴ™」は徹
底して「肌へのやさしさ」にこだわっています。ニチバンの根底には常
に「ユーザーが本当に求めるものを追求する」という姿勢があります。

肌に

ぴったり

の貼り心地



「ケアリーヴ™」には、伸縮性と通気性に優れた高密度ウレタン不織
布を採用しています。肌の動きにフィットし、白くふやけることがほとん
どありません。また低刺激性の粘着剤を独自開発したり、テープにエン
ボス加工を施して皮膚に近い滑り性を持たせるなど、使い心地の
よさを大切にしています。現在では多様なニーズにお応えするべく、テ
ープの形状や素材など、さまざまなラインアップを提供しています。

PLAYBACK 1997

低温下や水に濡れると硬くなる
という塩化ビニル製絆創膏の課題
を解消した「ケアリーヴ™」は、非
塩化ビニル製絆創膏の先駆けと
なりました。



次の100年も、
独自の製品開発を

メディカル事業本部
メディカル開発部長

古澤 高志



「ケアリーヴ™」、「ロイヒ™」、「バトルウィン™」など、これまでご
支持いただいた品質(ブランド)を守っていきます。その
上で、お客さまの予想や期待を超える効果や使いやすさを
実現できるような、ニチバン独自の製品の開発に取り組ん
でまいります。

包装材としての用途を開拓

_野菜結束システム たばねら™

ニチバンの「貼る」技術は、農産分野でも活用されています。従来、
野菜の結束はワラ紐などを使って行われており、作業者の大きな負
担となっていました。そのような状況下で、「テープで結束ができない
か」というお声をいただいたことをきっかけに、農産用という新たな分
野へのチャレンジをスタートさせました。開発・生産・営業が一体となっ
て生み出した「たばねら™」は、2018年で発売40周年を迎えました。

野菜を

ぴったり

たば
束ねる



「たばねら™テープ」は、粘着面同士を貼り合わせると強い粘着力を生
みますが、野菜には粘着剤が付着しないよう設計しています。また使
用シーンをふまえて、水に濡れたり多少の土がついても粘着力を保持す
ることができます。テープにはさまざまな印字もでき、従来は包装を補完
するものだったテープの用途を、独立した“包装材料”へと拡げました。

PLAYBACK 1978

開発時には実際に農家を訪問し、テスト
を繰り返しました。発売後は「使ってもら
えればよさを感じていただけるはず」と、
対面でのデモンストレーションも積極的
に行い、製品の浸透を図りました。



テープを通じて社会に貢献

ニチバンは、独自の粘着技術から生み出す製品を通じた社会貢献に取り組んでいます。その一環として行っているのが、スポーツをケガの不安なく楽しんでもらうためのテーピングの普及活動や、使用済み粘着テープの巻心を回収してリサイクルを行う環境活動です。安心・安全で持続可能な社会の実現のため、本業を通じて社会貢献を行うことが、ニチバンの果たすべき責任と役割だと考えています。

社会の

明日

を支える



「バトルウィン™」を正しく使っていただけるよう、「battlewin.com(バトルウィンドットコム)」上で、テーピングの巻き方を紹介しています。ユーザーが自分で巻けるよう動画などでわかりやすく説明する他、本格的なスポーツシーンだけでなく、日常生活や軽スポーツ時など、用途に応じた巻き方をレクチャーするコーナーも設けています。また、専門家と一緒に巻き方を習得できるテーピングセミナーも定期的に開催しています。

battlewin.com(バトルウィンドットコム)



専門家によるテーピングセミナー



PLAYBACK 1984

1981年に発売した初の国産テーピングテープに改良を重ね、激しいスポーツや汗にも耐えられる粘着力を持つスポーツテーピングテープ「バトルウィン™」を1984年に発売しました。

ニチバン 巻心ECOプロジェクト

製品の開発・販売・使用に留まらず、使い終わった後まで責任を持つことが企業のつとめという考えのもと、2010年より「ニチバン巻心ECOプロジェクト」を実施しています。(詳細はP15をご覧ください)



フィリピンでのマングローブ植樹活動



2017年度は50万個以上の巻心を回収しました



持続可能なニチバンの社会貢献を

執行役員 IR担当
経営企画本部長(兼)広報宣伝室長
片桐 真人

ニチバンは、粘着の技術をベースに生み出される製品やそのサービスを通じて社会貢献に取り組んできました。次の100年に向けても、ニチバンとして持続可能な取り組みを行い、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

環境技術へのあくなき追求

ニチバンは、1960年代からさまざまな環境への取り組みを進めています。それは、環境問題の深刻化にともなう社会的要請であり、ニチバンの技術開発の歴史でもありました。現在は製品の開発段階で、開発・製造・流通・使用・廃棄まで、すべてのライフサイクルにおける環境負荷を評価し、製品づくりの指標としています。

環境に

やさしい

モノづくり



「ECOのり」を使用している「ナイススタック™エコタイプ」

貼ったまま紙を再生できる「ECOのり」

2004年、書類などにテープを貼ったまま紙を再生できる離解性粘着剤「ECOのり」を開発しました。従来の粘着剤は水に溶けないため、そのかたまりが残ったり機械に付着してしまうなど、古紙再生の妨げとなっていました。「ECOのり」は水やアルカリ水溶液に細かい粒子として分散するため、紙をきれいに再生することができます。現在は「ナイススタック™エコタイプ」をはじめ、「マイタック™」のリサイクルシリーズなどに「ECOのり」を使用しています。また、有機溶剤を使用せず、安全性の高い「エマルジョン粘着剤」の合成技術の開発にも取り組み、マスキングテープなどに展開しています。



「マイタック™ リサイクルラベル」

ホットメルト塗工技術の開発

1971年より、環境汚染を引き起こす可能性のある有機溶剤を使わない、ホットメルト塗工技術の開発に着手しました。これは、高温で混合攪拌したゴムや樹脂による粘着液を使用・塗工するもので、「無溶剤ホットメルト塗工方式」として1973年の設備導入後、1981年からクラフト粘着テープの生産を開始しました。溶剤を使用しないため、大量のエネルギーを要する乾燥工程を省くことができ、また排溶剤ガスも発生させないこの方式は、環境に配慮した製造技術の先駆けとなりました。

PLAYBACK 1981

「無溶剤ホットメルト塗工方式」を用いた最初の製品は、1981年発売のクラフト粘着テープでした。現在では布粘着テープも生産しており、今後は他製品への展開も検討しています。



環境負荷低減に向けた技術の追求を

上席執行役員
品質保証本部長
竹中 勇雄

ニチバングループ環境方針に掲げる「人と物および地球環境にやさしい技術」により、事業活動のさまざまな場面で、環境負荷低減活動を推進してまいりました。これまで培った技術を基に、今後も新たな価値を創造する技術を追求し、快適な生活に貢献し続けることを目指して活動を推進します。

WITH CUSTOMER

社会性報告 お客さまとともに

製品を通じてお客さまと信頼関係を築きます。

メディカル事業

バトルウィン™ Wグリップ™



伸縮テープとアンダーラップが一体化した日本初のテーピング

「Wグリップ™」は、伸縮テープと皮膚を保護するアンダーラップの機能を一体化した構造のバンデージテープです。

優れた固定力と圧迫力があるので、部位をしっかりサポートします。伸縮性のある基材は薄くて軽いため、フィット感があり疲れにくくなっています。また、テープ同士のみがくっ付き(自着)皮膚にはテープが付着しないため、巻き直しも簡単にでき、皮膚の弱い方や体毛の多い方にも安心してご使用いただけます。カラーバリエーションは4色で、チームカラーに合わせて選べます。テーピングと併用することで使用シーンの幅が広がり、プロアスリートから一般ユーザーまで幅広く使用いただけます。

これからもスポーツを楽しむすべての人々をサポートするために、粘着技術を活かした製品とコンテンツ開発に取り組み続けます。

★Wグリップ™特設サイト

http://www.battlewin.com/battlewin_tape/special/wgrip/

開発担当者の声 ユーザーの声に耳を傾けながら、市場を開拓していきたい

お客様相談室に寄せられた、テーピングによるカブレや刺激などの皮膚トラブルに関する声に対して、何とか改善できる方法がないかと検討を始めたのが、開発のきっかけです。

自着バンデージを用いたテーピング手法は、日本においてはほぼ認知されていなかった

ため、製品開発だけでなく、普及・浸透も重要になると考えました。巻き方の開発においては多くのトレーナーの方々にアドバイスをいただき、普及においてはアンバサダーに就任していただいた長谷部誠選手のおかげで十分な効果を得ることができました。発売前は「ユーザーがプロサッカー選手に

限定されるのでは？」との懸念もありましたが、使いやすさ、肌へのやさしさから、一般ユーザーにおいても満足度98%と高い評価をいただきました。汎用性の高いテーピングですので、今後も特長を活かした巻き方を開発し、多くの方に発信していきたいと考えています。

あかぎれ保護バン™ スポット用



肌にぴったりフィットし、ピンポイントであかぎれを保護

「あかぎれ保護バン™」は、業界初のあかぎれ保護専用絆創膏として2004年に発売しました。ハンドクリームなどのようにこまめに塗り直す必要がなく、通気性と伸縮性に優れた絆創膏が肌にぴったりフィットして、あかぎれを保護します。

当社のユーザー調査で、あかぎれが複数できる方が多く、部位に合わせて保護テープを切って使うケースが多いことがわかりました。そこで、小さな部位でも切らずにピンポイントで貼れるよう小さいサイズとして「スポット用」を開発。あかぎれができやすい「爪横」にも簡単に貼ることができます。

「あかぎれ保護バン™」シリーズは、他にも指先用、関節用、関節用大容量、ロールタイプ、防水タイプと豊富なラインアップで、痛くて辛いあかぎれから指を保護します。

テープ事業

ディアキチ™ ワザアリ™ テープカッター



「より便利に、簡単に」を追求した片手で簡単に切れるテープカッター

「ディアキチ™ ワザアリ™ テープカッター」は、ラベルや封どめなどキッチン周りのさまざまな用途で使える「ディアキチ™ ワザアリ™ テープ」を片手で簡単にカットできるテープカッターです。強力なマグネットで冷蔵庫に固定して使用できます。テープを「片手で簡単に切れる」ことにこだわり、刃の形状や角度を工夫しました。本体にペンを掛けることができるので、テープに日付等を書き込んでラベルとして使う場合にも便利です。テープカッターに付属している「ディアキチ™ ワザアリ™ テープミルクカラー」は、油性ペンで書いた文字が読みやすい色味で、切れ味が従来品よりも軽くなりました。水に強いフィルム素材で、貼ってはがせるのり残りの少なさも特長です。

「ディアキチ™」シリーズは、忙しい毎日が少しでも楽になるよう、家事の時短と効率化を応援していきます。

開発担当者の声 試作検証を繰り返し、理想の使い心地を追求しました

「ワザアリ™ テープ」を使っている知人から「料理や家事をしながら、片手で手軽にテープをカットできる専用のテープカッターがほしい」という要望をもらったことが開発のきっかけでした。マグネットホルダー付きのラインアップはありますが、片手で使用することはできませんでした。「キッチン用途の新しい

テープカッターがあれば、各家庭での「ワザアリ™ テープ」の使用シーンが広がるはず」と考え、開発をスタートさせました。注力したのはカッター刃の仕様です。どのような形状の刃が、どのくらいの角度だと最も簡単に切れるのか見出すために相当数の試作検証を繰り返しました。苦勞の甲斐あって「刃が

斜めになっていることで、切れ味がよい」「安定感があり、使い勝手がとてもよい」との評価をいただいています。今後も、使ってくださるお客さまの顔を思い浮かべながら、多くのご家庭で使用いただける製品の開発・改善に取り組んでいきます。

とめたつ™ ライト／とめたつ™ テープ環境配慮タイプ



小型・軽量化で作業性アップ 誘引作業の負担を軽減

ぶどうの新梢やきゅうりの誘引結束システム「とめたつ™」シリーズが、さらなる改良を経て、より使いやすくなりました。誘引結束機「とめたつ™ ライト」は、従来品から本体重量を約30g軽減。重心の位置を変更することでバランスがよくなり、両腕を上げたまま長時間連続作業を行う誘引作業の負担を軽減します。他にも、本体の持ち運びに便利な開閉ストッパーや、テープ交換がスムーズにできるカバー構造など、さまざまな改良によって作業性・使いやすさが向上しています。さらに専用粘着テープ「とめたつ™ テープ環境配慮タイプ」は結束時の粘着力(自着保持力)が向上しただけではなく、原材料に生分解性樹脂を使用することで、時間とともに基材強度が弱まり、収穫後のテープ取り外し作業がさらに簡単になりました。

「とめたつ™」シリーズは、粘着技術と使いやすさにこだわった開発を通して、農作業の負荷軽減に貢献していきます。

社員がいきいきと働ける 職場づくりをすすめていきます。

ダイバーシティ推進 ニチバンでは、多様な人材が活躍できる職場づくりに取り組んでいます

女性活躍推進

ニチバンでは、働き続ける施策は整備されているため「勤続年数に男女の差はない」が、「管理職比率に男女の差がある」という課題を解決するために、第一期行動計画(2016~2018年度)を策定し、取り組みを進めています。

2017年度は、全管理職向けに「多様性マネジメント研修」、役員向けに「働き方改革講話」を実施し、意識改革への取り組みを進めました。また、2016年度から継続して、女性リーダー層への研修として「目標設定研修」を実施しています。

障がい者雇用

ニチバンでは、2018年3月末時点で法定雇用率を維持しており、今後も法定雇用率を維持できるよう雇用を継続していきます。安城事業所では、特別支援学校からのインターンシップを受け入れ、雇用につなげています。

ワークライフバランス

ニチバンでは、社員の仕事と生活の調和(ワークライフバランス)推進の一環として、法定の「年次有給休暇」に加え、さまざまな休暇・休職制度を整備しています。私傷病(仕事以外の理由で生じたケガや病気)のための「傷病休暇」、子育てのための「育児休職」、「育児短時間勤務」、家族の介護を目的とした「介護休暇」、「介護休職」、「介護短時間勤務」などがあります。また、勤続10年ごとに取得できる「リフレッシュ休暇」、社会貢献活動のための「ボランティア休暇」などを設けています。

第一期行動計画

〔計画期間〕 2016年4月1日~2019年3月31日(3年間)
〔目標〕 管理職に占める女性の割合を8%以上にする
※女性管理職比率: 女性 6.0%(2016年3月末)



目標設定研修

休暇等の取得率

年次有給休暇取得率 **43.9%**
離職率 **1.5%**
育児休暇・休職制度利用人数※ **15名**
介護休暇・休職制度利用人数※ **4名**
育児休職からの復帰率 **100%**

※2017年4月~2018年3月に育児および介護休暇・休職を取得した人数

雇用環境の整備

ニチバンでは、社員が仕事と家庭生活を両立し、その能力を十分に発揮できるよう雇用環境の整備を行い、社員と会社双方の成長につながるよう支援しています。次世代育成支援対策法に基づき、2015年度から2017年度の一般事業主行動計画(第4期)を策定し、以下取り組みを実施しました。

第4期行動計画目標と達成状況(期間:2015年4月1日~2018年3月31日)

目標	対策	達成状況
育児等を行う社員の仕事と家庭生活の両立を支援するための雇用環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ●育児関連制度の定着にむけた周知啓蒙 ●男性社員の育児休職取得促進 ●勤務地選択制度の導入 ●女性活躍支援措置の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●社内イントラに育児休職関連制度を掲載し周知 ●積立年休の活用など男性の育児休職取得を促し、5名取得 ●ライフイベント(育児・介護等)を重視する必要がある正社員を対象とした、地域選択正社員制度を導入(2015年10月) ●女性活躍支援措置として、意識改革研修を実施
所定外労働時間削減、年休取得促進への施策推進	<ul style="list-style-type: none"> ●ノー残業デーの浸透および勤怠データを活用した時間外労働の削減 ●年休取得率向上にむけた取得促進施策の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ●月1回以上の定時退社推進日を設定し、事業所へメール配信等を行った ●在社時間や時間外労働のデータを毎月社内イントラに公開し、事業所改善活動を促し労働時間削減に繋げる活動を行った ●年休取得1日未滿者を労使で確認し、取得促進を実施
若年者に対するインターンシップ等の就業体験機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ●インターンシップを定期実施 	薬学生インターンシップ(本社・開発研究部門)および営業職インターンシップ(営業部門)を実施した

人材育成

ニチバンでは、専門性と創造性に富み、新たな領域にチャレンジする意欲にあふれた人材の育成を目指す教育研修を実施しています。入社後は階層別教育を主体にニチバンで働く社会人としての基礎を身につけ、その後は専門教育を中心に一人ひとりの役割に応じた専門的力量を養います。

海外展示会への派遣

ニチバンでは、グローバル人材育成の一環として、「海外における仕事経験の場」を提供するために「海外展示会派遣」を実施しています。全社公募から選ばれた2017年度派遣者は、国内業務で培った「製品・技術・販売の専門知識」と、自己学習で身につけた「語学力」を活かし、

接客や製品説明を行いました。2018年度も継続し派遣を予定しています。今後もより多くの社員が、グローバルビジネスに必要な能力を身につけることができるよう、さまざまな施策を検討していきます。

海外展示会派遣者の声

ヘルスケア営業統括部
大阪支店 薬品課(当時)

勝間 雄大

ドイツで開催されたMEDICAでは、世界最大の医療機器・製品の商談見本市という名の通り、医療従事者・関係者、バイヤー、メーカーが世界中から集まっていたことに、

まず驚きました。ニチバンの認知拡大・製品の専門的な紹介・各国代理店探索・商談など、国内の展示会とは目的が異なる点に多少とまどいましたが、同時に新鮮で刺激的でした。海外への拡販は課題が多いですが、同時にのびしろであると考えています。今回体験した貴重な時間を、今後の自分の営業活動、そしてビジネスマンとしての成長につなげていきます。



さまざまな活動を通じて ステークホルダーの皆さまとの絆を深めます。

ニチバン巻心ECOプロジェクト

ニチバン製品の多くは粘着テープで、形状を保つために巻心に巻き付けられています。使い切った後に残る巻心をゴミにしないために、ニチバンでは各種使用済みの巻心を回収し、資源として再利用する「巻心ECOプロジェクト」に2010年から取り組んでいます。回収した巻心をダンボールにリサイクルして再利用するとともに、リサイクルによる利益金および当社からの支援金で、環境保全活動を実施しています。

第8回はプロジェクト開始以来最多の50万個以上の巻心(重量換算約6トン)を回収することができ、累計回収個数は290万個(重量換算約32トン)となりました。

今後も、多くの皆さまに参加いただける環境保全活動を推進していきます。



学校、NGO、企業が協力して杉の苗を植樹 回収された巻心の一部

島根県江の川「森のしずく」保全活動

今回から、新たに国内での森の保全活動をスタートしました。日本製紙株式会社の江津工場(島根県江津市)で、「セロテープ®」の素材であるセロハンの主原料となる溶解パルプを生産していることから、近郊の江の川流域(島根県邑智郡)に広がる同社の社有林の一部において、ニチバンが同社の協力を得て植樹や間伐など適切な手入れを行い、森の本来の力を高める取り組みです。

国内植樹第1回は、2018年5月22日に島根県邑智郡川本町にある日本製紙株式会社 銅ヶ丸社有林の一部にて、地元・島根県邑南町立高原小学校の児童、日本福祉大学附属高等学校の生徒、環境NGO「イカオ・アコ」を招待し、0.1haに杉200本を植樹しました。

参加者の声

整えられた場所ではなく、急な斜面での植樹ということで、実際の作業により近い形で活動させていただけたことがありがたかったです。植樹を通じて木を植える苦労や、木が育つまでの長い年月について知ることができ、環境に対する思いを広げていきかけになったと思います。(邑南町立高原小学校 教諭 三上様)

フィリピンでのマングローブの植樹・メンテナンス活動

環境NGO「イカオ・アコ」※が1997年から実施している活動で、これまでネグロス島・ボホール島各地に約130万本の植樹を行っています。ニチバンは「巻心ECOプロジェクト」開始時からこの活動を支援しており、これまでに17万本以上の植樹に協力しています。

※環境NGO「イカオ・アコ」(代表: 後藤順久)

1997年設立。同年からフィリピンでマングローブの植樹事業を開始し、継続的な植樹と保全活動を行っています。他、現地の教育支援活動、コミュニティ・トレードも行っています。ホームページ <http://ikawako.com>

参加状況&回収結果報告

回数	団体参加 (団体)	個人参加 (人)	巻心回収数 (個)	巻心重量 (kg)
第1回	580	1,031	74,522	930
第2回	958	1,183	195,139	3,264
第3回	1,172	589	452,480	5,122
第4回	778	829	434,079	4,611
第5回	710	997	493,319	5,978
第6回	794	272	484,534	5,582
第7回	722	245	267,231	5,033
第8回	818	281	500,958	6,339
合計			2,902,262	36,859

スポーツ支援の取り組み

ニチバンは、公益財団法人日本スポーツ協会のオフィシャルパートナーとして、傷害予防の普及やトレーナーの育成を支援しています。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの検定試験でテーピングを提供しているほか、スポーツ指導者向けに「スポーツ活動キャンペーン」を通じて、救急絆創膏の使い方や熱中症予防などの啓蒙活動を大塚グループで行っています。今後も、適切なケアの処置ができるスポーツ指導者や次世代のアスレティックトレーナーの育成を応援していきます。



スポーツリーダー兼スポーツ少年団認定員養成講習会



日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成講習会

タイでのCSR活動

ニチバン(タイランド)および合弁会社ユニオン・タイ・ニチバンでは、2017年11月24~25日にタイ大塚製薬株式会社主催のCSR活動に参加しました。

本活動では、カンチャナブリー県のワットムブワー小学校に寄付を行い、寄付金で建築・改修した学校設備の寄贈と、各社の社員による外壁の塗り替えや植樹、児童との交流会などを実施しました。

今後も、事業活動を行う地域社会に貢献できるよう、さまざまな活動を推進していきます。



ニチバン(タイランド)とユニオン・タイ・ニチバンでの記念撮影



児童との交流会

株主・投資家とのかわり

株主の皆さまとのコミュニケーションを図るため、ニチバングループでは事業活動を取りまとめた報告書を定期的に発行しています。また、株主優待制度として、100株以上保有いただいている株主さまに3,000円相当の当社新製品を中心とした「製品詰め合わせ」を年1回進呈しています。機関投資家や証券アナリストの皆さまには、個別取材に随時対応するとともに、決算説明会を年2回開催しています。その他にもホームページやIRニュースのメール配信を通して、適時適切なIR情報の提供に努めています。



株主優待品 贈呈内容の例



決算説明会

埼玉工場での火災事故について

2018年1月18日、埼玉工場(埼玉県日高市)の設備から出火する事故が発生し、消防署に通報しました。この火災により、工場設備の一部が損傷しましたが、人的被害および工場建屋の被害はありませんでした。近隣住民の皆さまをはじめとする多くの方々に多大なご迷惑とご心配をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

再発防止に向けた対策

製造設備に除電装置の増設および静電気・溶剤ガス濃度モニターを設置し、安全管理を再徹底しました。ニチバングループとして防火管理について周知徹底し、再発防止に努めます。

MATCH TO THE ENVIRONMENT

環境負荷低減の取り組み

省エネルギーへの取り組みをはじめ 環境面での配慮に努めています。

ニチバングループ環境方針

ニチバンは人と物および地球環境にやさしい技術を通して、
製品の全ライフサイクル[開発・製造・流通・使用・廃棄]にわたり
安全と健康と環境面の配慮に努める

ニチバングループでは、日々の業務において生産性の向上に取り組むことが環境保全につながると考え、環境方針のもと、ISO14001を基本として環境マネジメントに取り組み、継続的な改善を目指しています。

環境負荷低減の取り組み

水の有効利用

世界的に水資源の確保が重要な課題となっている中、ニチバングループでも水使用量の削減と有効利用に取り組んでいます。これまでも冷却水の循環利用など水の有効利用を推進し、2017年度の水使用量は703千m³となりました。今後も水使用量の削減に努めていきます。

廃棄物削減

ニチバングループでは、サーマルリサイクルを含めた廃棄物処理業者によるリサイクルの実施や有価物としての売却・廃棄物の分別管理などの取り組みを継続し、廃棄物の99%以上をリサイクルするゼロエミッションを維持しています。

有価物の管理

ニチバン埼玉事業所では、環境目標として廃棄物削減を掲げ、その中でゴミとして廃棄してしまう“資源”を有価物にする取り組みを継続しています。昨年度は紙および工程内で廃棄されるテープの基材をさらに分別し、有価物への転換を進めましたが、今年度はアルミシートについても有価化に取り組み、廃棄物の削減に取り組みました。

旧大阪工場における土壌・地下水汚染について

ニチバンは、大阪府藤井寺市の旧大阪工場において、土壌汚染対策法に基づき敷地内の土壌汚染状況調査を行ってまいりました。調査結果を2018年3月27日付で大阪府に報告し、2018年6月25日付で「要措置区域」に指定されました。

1. 要措置区域※の指定

- (1) 指定された地域
旧大阪工場 大阪府藤井寺市北岡二丁目40番1の一部
- (2) 土壌汚染対策法施行規則第31条第1項の基準に適合していない特定有害物質の種類
ベンゼン
- (3) 講ずべき指示措置
原位置封じ込め又は遮水封じ込め

※要措置区域：
土壌汚染の摂取経路があり、健康被害が生じる恐れがあるため汚染除去などの措置が必要な区域を表します。

2. 講ずべき指示措置への対応

近隣住民の皆さまにご迷惑をおかけしないことを最優先とし、大阪府のご指導をいただきながら、講ずべき指示措置への対応を進めてまいります。

環境目標と実績

対象範囲： 本社、埼玉事業所、安城事業所、大阪工場、グループ会社3社

課題	2017年度実績
CO ₂ 総排出量削減	下記の施策および課題推進により売上高に対するCO ₂ 排出量原単位は前年度比で0.2%増とほぼ横ばいでしたが、生産数量の増加および新工場の稼働により、CO ₂ 排出量は前年度比4.9%の増加となりました。
生産性向上施策推進	塗工工程の増速や設備の安定稼働を行い、各主要製品の稼働率および歩留アップによる生産性の向上を図りました。
脱溶剤・減溶剤課題推進	脱溶剤の施策として有機溶剤を使用しない新製品の開発に向け、無溶剤の粘着剤の開発、製造方法の検証を行いました。2018年度は新製品開発・既存品への拡大を基本としたグループ全体の脱溶剤計画策定を進めています。

資源とエネルギーの使用・排出量

対象範囲： 本社、埼玉事業所、安城事業所、大阪工場、グループ会社3社

INPUT 総エネルギー使用量 2016年度 523,735 → 2017年度 553,860 GJ

外部調達	
電気	2016 25,998 → 2017 28,914 千kWh
水	2016 684 → 2017 703 千m ³
その他燃料油	2016 290 → 2017 285 kL
都市ガス	2016 6,391 → 2017 6,506 千Nm ³
A重油	2016 0.0 → 2017 0.0 kL

自家発電
コージェネレーション発電量 2016 3,171 → 2017 3,083 千kWh

OUTPUT

生産
CO₂排出量 2016 23,688 → 2017 24,856 t-CO₂ 産廃物発生量 2016 4,351 → 2017 4,130 t

物流
CO₂排出量 2016 3,085 → 2017 3,322 t-CO₂

★環境負荷低減活動につきましては、ホームページで詳しく紹介しています。 <http://www.nichiban.co.jp/csr/environment/>

ニチバン株式会社

〒112-8663 東京都文京区関口二丁目3番3号

TEL. 03-5978-5601 FAX. 03-5978-5620

www.nichiban.co.jp

ご意見・ご質問は、下記までお願いいたします。

経営企画本部 広報宣伝室

TEL. 03-6386-7190 FAX. 03-6386-7191

●®は登録商標、TMは商標です。

●本報告書は、「FSC®森林認証紙」、「ベジタブルオイルインキ」を使用し、
VOC削減効果の高い「水なし印刷」で印刷しました。

